

県立高「教育コース」

選択肢増え柔軟に

平城中学校教員養成も

高田2年次に進路選択

来年度入試から特色選抜の教育コースの募集を停止する県立平城高校（奈良市朱雀2丁目）と県立高田高校（大和高田市磯野東町）は、教職を目指す生徒のための新しいコースの概要をまとめた。両校ともに一般選抜で普通科として募集し、入学後に希望者を募る。現行の教育コースとほぼ同じ教育課程を受けられるという。今月中旬に県内の市町村教育委員会に対して概要を通知した。

来年度から特色選抜は停止

平城高では「教育キヤリアコース」に改称し、1学年に1クラス設置。定員は40人程度で、入学時に希望者から提出させた「希望理由書」で教員になりたいという思いなどを聞いて選考する。2年次に進級する際にも、一般コースからの転入や教員養成に向けた授業単位数は3年間で8か

ららに減少するものの、教育内容を厳選して対応する。また、従来は原則的に小学校教員の養成を目指してきたが、中学校教員養成に向けた取り組みも新たに加えらる。このほか、各地の大学や地元の小中学校な

どの連携も維持する。一方、高田高は「教育アンビシャスコース」に名称を変更。2年次に類型選抜で「人文探求型（文系）」、「自然探求型（理系）」を加えた3コースの中から選択する方式を採用する。各コースの定員は設けず、入学後に自分の進路希望に合わせた多様な選択ができるようになる。

1年次は共通履修となるが、総合的な学習の時間を利用した「探究」の授業で「教育基礎」を選択すれば、現行の教育コースと変わらないカリキュラムを受けられるという。従来どおり教育系大学などと連携した授業を実施。大和高田市内の小中学校での体験学習や幼稚園児の交流なども行い、小学校などの教員になるための資質や意欲を育む。

両校に全国で初めてとなる教育コースが設置されたのは平成18年4月。県高校入試の特色選抜で各40人を募集し、教職を志す生徒の意欲や職業意識などを高校時代から育むことを目的とした授業を行ってきた。多くの卒業生が教壇に立つなど成果が出ている。

ただ同コースの設置は、いわゆる「団塊の世代」を中心とした教員の大量退職・採用時代を見据えた取り組みで、同問題への対応が終われば教員採用数は減少が予想される。そのため、県教育委員会は生徒の選択の幅を広げて進路希望に柔軟に対応するため、特色選抜での募集は停止することを決めた。

平城高校の沼田守弘

校長は「中学校も大学に合わせることで多様性が広がり、生徒たちの選択肢も増える。10年間培ってきたことを生かしたい」と話す。

また、高田高校の藤田和義校長は「少子化の中で、教職員に求められる資質を高校で育み、大学で専門性を高めてもらえれば」と期待している。

県内の公立高校の実施要項は9月ごろ発表される予定。

2016年7月24日

奈良新聞掲載